加入国際学術団体に関する調査票

1　国際学術団体活動状況（内規第 11 条　活動報告）

<table>
<tr><td rowspan="3">団体名</td><td>和</td><td>アジア科学アカデミー・科学協会連合</td></tr>
<tr><td>英</td><td>The Association of Academies and Societies of Sciences in Asia（略　称　AASSA）</td></tr>
<tr><td>団体 HP（URL）</td><td>http://aassa.asia
（日本学術会議が加盟していることの記載 (有)・　無　）</td></tr>
<tr><td colspan="2">国際学術団体における最近のトピックについて
（学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等）</td><td>インターアカデミーパートナーシップ（IAP : 約 140 以上の科学アカデミーが加盟している国際学術団体）は４つの地域ネットワークとして AASSA（アジア太平洋）、 EASAC（欧州）、IANAS（アメリカ大陸）、 NASAC（アフリカ）を傘下に有している。このうち AASSA は、オーストラリア・ニュージーランドを含む 32 のアジア太平洋地域の加盟機関により構成されており、事務局は韓国（Korean Academy of Science and Technology : KAST）が務めている。AASSA の主な活動として、テーマ別の特別委員会及び研究プロジェクトの設置、IAP 等との共催によるワークショップ及びウェビナーがあり、直近の活動は、以下のとおりである。

（１） 報告書の出版
・2021 年 10 月　Current practice& Issues for Improvement in STEM Education up to K-12 in Asia and Pacific
・2021 年 11 月　The imperative of climate action to promote and protect health in Asia
・2022 年 10 月　Risk Assessment of Neonicotinoids in the Asia-Pacific region

（２）ウェビナーの開催
・2021 年 12 月 7 日　Combatting predatory Journals and Conferences – Predatory Academic Practices: Regional Perspectives and Leaning
・2022 年 2 月 22－24 日　Long-Term Social Impacts of the Covid-10 Pandemic

（３）ワークショップの開催
・2021 年 12 月 29－30 日インドネシア（ハイブリッド）First International Science Communication Congress
・2022 年 4 月 25－26 日　韓国（ハイブリッド）　Global climate change and zoonotic infectious diseases
・2022 年 5 月 21－22 日　トルコ（ハイブリッド）Understanding Sustainability in the context of business organization and philanthropic institutions
・2023 年 4 月 28－29 日　トルコ　The Role of Science</td></tr>
</table>

	Academies towards the Future of Basic Sciences ・2023 年 6 月 20－21 日　インドネシア　Science Literacy in the Digital Era ・2023 年 7 月 6－8 日　スリランカ　Institutionalising Science Advice to Governments ・2023 年 10 月 7－8 日　バングラデシュ　Nature of Sustainable Development ・2024 年 6 月 28－29 日　トルコ　Science Diplomacy for Sustainable Development Symposium ・2024 年 8 月 13－15 日　モンゴル　Environmental Hazards in Asia ・2024 年 9 月 1－3 日　インド　Science Policy Futures for Asia ・2024 年 9 月 5－7 日　スリランカ　Resilience to High Impact Low Occurrence（HILO）events: A cross-sector comparison ・2024 年 10 月 29－30 日　フィリッピン　Digital Transformation in Healthcare （4）若手女性科学者の表彰 2023 年に 5 名（モンゴル、バングラデシュ、マレーシア 2 名、スリランカ）、2024 年に 11 名（ネパール、マレーシア 2 名、モンゴル、フィリッピン 3 名、スリランカ、イラン、タイ）の若手女性科学者に賞を贈った。
当該国際学術団体の対応する分野の学術の進歩に貢献した事例	AASSA の上部組織である IAP は様々な学術分野を幅広く網羅する世界最大規模の国際学術団体であり、IAP 傘下の地域ネットワークである AASSA もまた、以下のプロジェクトやウェビナーの開催等を通じて、アジア太平洋地域における多様な分野の学術交流やネットワーク構築及び IAP コミュニティ内外への学術的貢献に貢献している。 （1）STEM 教育刊行プロジェクト（Current Practice & Issues for Improvement in STEM Education up to K-12） STEM（Science, Technology, Engineering, Mathematics）教育の重要性の高まりにあわせて、2020 年 AASSA は同プロジェクトを設置し、アジア太平洋地域における STEM 教育の取り組み状況や課題を集約し、2021 年 10 月に報告書を刊行した。日本学術会議からは氷見山幸夫連携会員がプロジェクトメンバーに推薦・選出され、日本の STEM 教育の現状や課題を調査した上で、本報告書の取りまとめに尽力した。

	（２）IAP 気候変動と健康プロジェクト（Climate Change and Health）プロジェクト 2019 年に始動した IAP がドイツ連邦教育研究省の協力・助成により主導する「Climate Change and Health（気候変動と健康）」をテーマとした共同研究プロジェクトに関し、AASSA は、加盟機関の専門家を当該研究プロジェクトチームへ派遣した。日本学術会議から推薦・選出された上田佳代連携会員が日本の現状のレポートを報告し、それらの内容を踏まえた気候変動による健康影響の現況と未来予測及びその健康影響を予防するための適応策と緩和策等について、報告書の取りまとめに貢献した結果、プロジェクトは滞りなく進み、IAP より公表された（2022 年５月）。 （３）ウェビナー （National Academy's Response to COVID-19） 2020 年、AASSA が主催して開催された。同ウェビナーに秋葉澄伯連携会員が日本学術会議の代表として登壇し、パンデミックへの日本の対応や日本学術会議の提言内容等を説明、各国の参加者と情報を共有した。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について	IAP は様々な学術分野を幅広く網羅する世界最大規模の国際学術団体であり、その傘下の地域ネットワークである AASSA は、IAP が世界的に重要であると判断した多様な研究テーマ等をアジア太平洋地域で展開し、IAP へフィードバックするという重要な役割を担っている。 IAP がドイツ連邦教育研究省の協力・助成により主導する「Climate Change and Health（気候変動と健康）」をテーマとした共同研究プロジェクトに AASSA は加盟アカデミーの専門家を派遣した。それらの専門家によって、気候変動による健康影響の現況と未来予測及びその健康影響を予防するための適応策と緩和策等について報告書が取りまとめられ、IAP より公表された。
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて	2018 年から 2021 年 10 月まで、吉野博日本学術会議連携会員が理事を務め、新たな委員会の設置やワークショップの開催等、役員として重要な議論に参画した。2024 年 10 月の総会で佐竹健治会員が理事に選出された。また、以下のとおり、研究プロジェクト及び特別委員会には日本学術会議の会員・連携会員が委員として参画しており、研究成果や課題を各国報告書として取りまとめ、他国や IAP に展開する等、幅広く活躍している。 （特別委員会） ・Sustainability 特別委員会：福士謙介連携会員（2019 年～） ※2022 年より同特別委員会委員長 ・Science Education 特別委員会：氷見山幸夫連携会員（2019 年～）

	・SHARE (Science, Health, Agriculture, Risk, Environment) 特別委員会：澁澤栄連携会員（2019 年～2021 年）、小池俊雄会員（2022 年～） ・Women In Science and Engineering 特別委員会：渡辺美代子連携会員（2017 年～2021 年）、伊藤由佳理会員（2022 年～） （研究プロジェクト） ・AASSA STEM 分野のアジア女性についてのワークショップ（3rd AASSA-WISE Symposium: Asian Women in STEM）：伊藤由佳理会員（2025 年） ・IAP 気候変動と健康プロジェクト（Climate Change and Health）：上田佳代連携会員（2019 年～2022 年） ・STEM 教育刊行プロジェクト（Current Practice & Issues for Improvement in STEM Education up to K-12）：氷見山幸夫連携会員（2020 年）
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて	日本学術会議は日本を代表して IAP に加盟しているが、アジア及び南太平洋域をカバーする AASSA で日本の研究者の存在感を示すことは、IAP における日本のプレゼンスを高めることに直結する。また、世界的な科学の潮流やアジア太平洋地域に関係する研究の取り決めなどに直接参画できることは日本にとって有益である。アジア地域における科学者同士のネットワークは十分でなく、AASSA を通じた研究交流活動は、日本の科学者が活躍しやすい環境づくりに資するものである。
その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）	女性研究者の活躍推進については、特別委員会（Women In Science and Engineering Committee）が設置されており、アジア太平洋地域内の科学教育の推進、科学・工学における女性の活躍推進を目的として“Profiles of Women Scientists in Asia Their inspirational stories”を刊行している。また、アジア・オセアニア女性科学者データベース“Profiles of Women Scientists in Asia”が公表された。

2　今後の予定について（内規第 11 条　活動報告）

総会、理事会の日本開催の予定について（招致等の予定も含め）	理事会やワークショップ等は 30 カ国の加盟アカデミーの持ち回りで開催されているが、2017 年にワークショップを日本で開催したことから、日本の開催招致は現状予定していない。
日本人の役員立候補等の予定について	吉野博連携会員が 2018 年総会から 2021 年 10 月まで理事を務め、様々な機会を捉えて、AASSA のプラットフォームを有意義に活用する努力を行った。佐竹健治会員が 2024 年～2027 年の任期で理事に選出された。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	日本側からの直接的な提案による直近の提言等はないが、前述のとおり、気候変動に関する国際的プロジェクトと、4 つの特別委員会においてそれぞれ、日本学術会議の会員・連携会員がメンバーとして活躍している。

３　国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条　活動報告）

<table>
<tr><td rowspan="3">総会・理事会・各種委員会等の状況）</td><td>総会開催状況</td><td>2024 年 10 月 30 日（開催地：フィリピン）
2021 年 10 月 15 日（オンライン開催）、
2018 年（開催地：タイ）、2016 年（開催地：トルコ）</td></tr>
<tr><td>理事会・役員会等開催状況</td><td>2021 年 10 月 15 日（オンライン開催）、
2020 年（オンライン開催）、2019 年（開催地：韓国）、
2018 年（開催地：タイ）、2017 年（開催地：フィリピン）、
2016 年（開催地：トルコ）</td></tr>
<tr><td>各種委員会開催状況</td><td>（特別委員会）
2017 年～2021 年
・Women In Science and Engineering 特別委員会（渡辺美代子連携会員）
2019 年～2021 年
・Sustainable 特別委員会（福士謙介連携会員）
・Science Education 特別委員会（氷見山幸夫連携会員）
・SHARE (Science, Health, Agriculture, Risk, Environment) 特別委員会（澁澤栄連携会員）
2022 年～2024 年
・Sustainable 特別委員会（福士謙介連携会員）※同特別委員会委員長
・Science Education 特別委員会（氷見山幸夫連携会員）
・SHARE (Science, Health, Agriculture, Risk, Environment) 特別委員会（小池俊雄会員）
・Women In Science and Engineering 特別委員会（伊藤由佳理会員）
2025 年～
・Sustainable 特別委員会（福士謙介連携会員）
・Science Education 特別委員会（近藤康久連携会員）
・SHARE (Science, Health, Agriculture, Risk, Environment) 特別委員会（大原美保会員）
・Women In Science and Engineering 特別委員会（伊藤由佳理会員）

（研究プロジェクト）
2019 年～2022 年
・IAP 気候変動と健康プロジェクト（Climate Change and Health）（上田佳代連携会員）
2020 年
・STEM 教育刊行プロジェクト（Current Practice & Issues for Improvement in STEM Education up to K-12）（氷見山幸夫連携会員）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>研究集会・会議等開催状況</td><td colspan="4">2024 年（開催地：スリランカ）、2024 年（開催地：フィリッピン）
2024 年（開催地：モンゴル）、2024 年（開催地：インド）
2023 年（開催地：バングラデシュ、2024 年（開催地：トルコ）
2023 年（開催地：インドネシア）、2023 年（開催地：スリランカ）
2022 年（開催地：トルコ）、2023 年（開催地：トルコ）
2021 年（開催地：インドネシア）、2022 年（開催地：韓国）
2019 年（開催地：インド）、2019 年（開催地：スリランカ）
2019 年（開催地：パキスタン）、2019 年（開催地：韓国）
2018 年（開催地：タイ）、2018 年（開催地：ロシア ）
2018 年（開催地：バングラデシュ）、2018 年（開催地：マレーシア）
2018 年（開催地：インドネシア）、2017 年（開催地：日本）</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定</td><td colspan="4">2024 年定期総会、1 人（佐竹健治）
2024 年研究集会（スリランカ）、1 人（佐竹健治）
2021 年定期総会、理事会（オンライン）、1 人（吉野　博）
2020 年理事会（オンライン）、1 人（吉野　博）
2019 年理事会（韓国）、1 人（吉野　博）
2018 年定期総会（タイ）、1 人（澁澤　栄）
2017 年理事会（フィリピン）、1 人（大西　隆）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">国際学術団体における日本人の役員等への就任状況</td><td>役職名</td><td>役職就任期間</td><td>氏名</td><td>会員、連携会員の別</td></tr>
<tr><td>理事</td><td>2024～2027 年</td><td>佐竹　健治</td><td>(25-26 期) 会員・連携</td></tr>
<tr><td>理事</td><td>2018～2021 年</td><td>吉野　博</td><td>(24-25 期) 会員・連携</td></tr>
<tr><td>理事</td><td>2014～2018 年</td><td>大西　隆</td><td>(　　期) 会員・連携</td></tr>
<tr><td>出版物</td><td colspan="5">1　定期的（年　　回）　主な出版物名
2 不定期（　　）　主な出版物名</td></tr>
<tr><td colspan="6">活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載</td></tr>
</table>

４　国際学術団体に関する基礎的事項（内規第３条、４条、５条）

<table>
<tr><td rowspan="3">国内委員会（内規４条第３号）</td><td>委員会名</td><td>アジア学術会議等分科会</td></tr>
<tr><td>委員長名</td><td>澁澤　栄</td></tr>
<tr><td>当期の活動状況</td><td>（開催日時　主な審議事項等）
2024 年 2 月 21 日
2024 年 8 月 9 日（メール審議）
2024 年 9 月 17 日（メール審議）
2024 年 12 月 9 日（メール審議）
2025 年 2 月 18 日（メール審議）</td></tr>
<tr><td rowspan="6">内規第３（国際学術団体の要件関係）</td><td colspan="2">国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である
(1) 該当する　　２．該当しない
※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載
(http://aassa.asia/common/download/AASSA_Constitution.pdf)</td></tr>
<tr><td colspan="2">各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている（主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か）

(1) 該当する　　２．該当しない

※根拠となる資料の添付又は URL を記載
(http://aassa.asia/common/download/AASSA_Constitution.pdf)</td></tr>
<tr><td colspan="2">下記の事項（ア～エ）のいずれか一つに該当するか（該当するものに〇印）

ア 個々の学術の専門分野における統一的かつ世界的な組織を有するもの

イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、かつ世界的な組織を有するもの

ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの

(エ) 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</td></tr>
<tr><td colspan="2">10 ヵ国を超える各国代表会員が加入している
(1) 該当する　　２．該当しない</td></tr>
<tr><td rowspan="2">加入国数及び主要な各国代表会員を 10 記載</td><td>（　30 ヶ国　）</td></tr>
<tr><td>・各国代表会員名／国名
・The Korean Academy of Science and Technology　韓国
・Indian National Science Academy　インド
・Bangladesh Academy of Sciences　バングラデシュ
・Turkish Academy of Sciences　トルコ</td></tr>
</table>

		・Academy of Sciences Malaysia　マレーシア ・Mongolian Academy of Sciences　モンゴル ・Chinese Academy of Sciences　中国 ・Far Eastern Branch of the Russian Academy of Sciences　ロシア ・The Academy of Sciences of IR of Iran　イラン ・Science Council of Japan　日本